

AElfric's Colloquy に於ける語順の一研究

椿

昇

1. 序 論

1-1 言語の屈折について：

言語によっては、かなり wO（語順）の自由であるものとそうでないものがあるが、一般に wO の自由の度は屈折の度合いに比例すると云われている。

即ち、屈折が多ければ多い程 wO の自由度の幅が大きくなると仮定することが出来るわけである。

一般に、古い時代の言語は新らしい言語よりも多くの屈折をもっているが、時代の経過とともに屈折は次第に減少乃至消失してゆくのが普通の現象である。

近代語が古代語よりも屈折に乏しいという各国語に共通してみられる現象の特徴は、時代の経過とともに生理的或いは心理的要求による単純化の現われであるかも知れない。

そして、語間の相対的な関係を示す屈折が消失するに随って、それらの文法的関係を明らかにするための wO の機能が重要になってくる。即ち、屈折が少なければ少い程、語間の文法的関係を示す wO の機能が重要になるといえる。

1-2 語順について：

扱、wO の形式は、必ずしも論理的なものではなくて、むしろかなり偶然的原因の発生を示していることが多い。

論理的な見地からいえば、接詞はそれが結ぶべき語間に発生し、前置詞はそれが支配する語の前に、接続詞としての関係詞はそれが導入すべき節の前に位置をとることが考えられ、又、主語＋述部の wO も期待出来る。

しかし、文構造は必ずしもそのように論理的な wO を示すとは限らず、しばしば感情的乃至強調的な原因によって、wO が伝統的に固定しているとみられる場合がある。

例えば、否定語が一般にその主要語 Head-word の前に位置するのは、それによって聞手が意味の反転に対して完全に用意出来るようにするためであるかも知れない。又、形容詞の前位も恐らく元来は強調的なものと考えられている。

wO には、文法的機能を果す基準的な形式と、文体的・修辭的な原因による例外的な形式に分けることも出来るが、時代の経過に随って、一時代には例外的な wO が他の時代には基準的な形式になることがある。

例えば、元来は強調的な限定形容詞の前位 Pre-adjunct order の原則によって発生したと考えられている印欧語に於ける所謂動詞後位 End-verb position の形式の伝統も、次第に、主語とともに文構造の最も重要な要素である動詞が文の末尾に位置するのは不自然に感じられて、遂には極めて短い文や慣用句の他は、前転位して主語に近づく中位をとるようになったので、動詞が主語に接近するこの経過は歴史的に観察出来ると云われる。¹

同様の経過は、OE に於ける動詞の位置についてみとめられるのであって、平叙文の主節乃至独立文に於ては、概して Mod. E. と同様の wO の形式を示しているといえるが、従節中では、未だ動詞の後位が支配的であって、しばしば動詞の後位が従節の文法的な目じるしにさえなっている。

しかしこの動詞の後位の wO は、しばしば非論理的であり、間の抜けた、固苦しい言いまわしになりがちであるから、一度、独立文中に便利な動詞の中位の wO が確立されると、それが次第に従節にも一般的になってゆくのは自然の成行きであるといわねばならぬ。

このことは、ドイツ語では、従節中の動詞の後位の wO が化石化されて固定しているように見えるのに、Mod.E. ではもっと自然で論理的であると考えられる動詞中位の wO が一般的な形式になっていることから理解出来る。

1-3 OEの語順：

Mod.E. では、屈折の多くを消失した結果、文中に於ける語間の相対的な位置は或る程度固定し、その関係は wO の形式によって決定されることが多い。即ち、Mod.E. では wO は最も重要な文法的機能の一つになっているのである。

Mod.E. が “Period of no inflections” と呼ばれるのに対して、OE 時代は “Period of full inflections” 呼ばれているように、OE は現代ドイツ語以上に多量の屈折を示しているようにみえる。

名詞には、格のほかに数・性の数種の屈折があり、形容詞も比較変化のほかに格・性・数によって屈折し、動詞は Mod.E. よりもはるかに多くの強変化を有し、人称・数・時制・法など多様の屈折をもっている。

屈折の多様さと比例して、OE に於ける wO は、Mod.E. のそれと比較すればかなり自由である。

例えば、SVO/C 形式についてみると、散文にも詩にも、これらの要素の殆んどあらゆる順序の組合せが発生し、各形式について殆んどあらゆる自由変形 Free Variation が記録されている。

しかしこの自由さを強調しすぎて重要な二つの点を見逃してはならない：

- ① OE の wO には記述形式に一致するかなりの幅があること。
- ② OE の wO の形式は Mod.E. のそれとかなり一致する点があること。

扨、wO の問題は、構文全体に関係するのであって、Syntax のカテゴリ

一の問題で wO に関係しないものは殆んどないと言える。そしていろいろな角度から wO の問題を分析してゆくことが出来るが、本論に於ては、主として構文を中心として Mod.E. の見地から従来の分類に従い、所謂 5 文型について分析を進めることにしよう。

尤大な OE 文学に於て、比較的不規則・例外的な形式はあまり重要でないといえるから、重要かつ頻繁な分布形式について調べてみたい。

即ち、主として完全な文としての形態を具えている形式——主部と述部からなる形式の中で（修飾語句の位置は、文体乃至修辭的考慮によることが多いから除外して）その第一義的要素 SVO/C（助動詞 v 間接目的語 o を含めて）について wO の関係を調べてみることにする。

本論に於て、主として研究の目標として意図するところは：

- ① この作品に於ける OE に於て、Mod.E. に対応する構文の形式が支配的であるかどうか。或いは、それらが固定的な特徴を示しているかどうか。
- ② 主節と従節中の wO に於て、何らかの相違があるかどうか——あるとすれば、その特徴を明らかにすること。
- ③ 上の問題を中心として、wO の形式の変化に於ける歴史的な過程を観察し、その変化の特徴を明らかにするための資料を収集することが本論の目的である。

1-4 テキストについて：

AElfric's Colloquy は、11世紀の前半以来長い間、ラテン語を教えるために使用されていたという教師と生徒の会話教本であって、アングロ・サクソン時代の中・下層階級の生活をいきいきと描写している点で貴重な文献である。

Colloquy には、完全なものと、不完全なものと合わせて 4 つの MS が異

本として残っていて、そのうち所謂 C (British Musium, Cotton MS Tiberius A.) が最も完全であり、又原本に最も近いと云われる。それは、ラテン語の行間に OE の註 gloss が平行し記入されているもので、筆者が参照している Garmonsway 校訂のテキストはこれによる。

扱、Colloquy は、10世紀 Archbishop Ælfric (*d.*1005)² によって作られたものであり、その弟子 Ælfric Bata によって部分的に書加えられたものであるとされている。

即ち、第1のテキストが書き記されるまでに諸種の異本が使用されていたらしいと云われるが、C 版の MS のラテン語は Ælfric 自身によって作られたものであることは殆んど異論がなく、ただ C 版 MS の行間の註の OE を誰が記入したかは最も議論の分れるところである。

そして、註の性質から、それが機械的な記入による生硬さと不自然さは当然考慮しなければならないけれども、しばしば現われるラテン語との不一致によって、結局、その註は Ælfric 自身によって書かれたものではなくて、他の教師によって後に記入されたものであらうと云われている。

この OE は、A-S 時代末期の会話の典型であり、後期 OE と消失したであらう Ælfric の原本のコトバの独特の特徴を示しているとされている。

又、その構文は、行間の註であり、会話のための教本であるために、ラテン語の wO が保存されて、多少条件づけられたものと考えられるけれども、むしろ、予想される以上に OE 本来の wO が保存されているとみとめなければならない。この作品をとり上げて論ずるのは主としてこのような理由によるのである。

尚、印刷上の便宜によって、テキストの cong. 7 → and, wen p → w を夫々使用していることを附言したい。

2. 第 1 型式

2-1 S-V型 :

- 1) Ic 3a ut on dægræd, pywende oxon to felda (*I go out at dawn driving oxen to the field*)
- 2) ealle niht ic stande ofer hi3, waciende for peofan (*all night I stand by them watching for theft*)
- 3) Hwilon ic do, ac seldom (*Sometimes I do, but seldom*)
- 4) Eala, leof hlaford, pearle ic deorfe (*Oh, dear sir, I work hard*)
- 5) Sop pu segst, ac ic ne 3eprist3e, for modes mines nytenyssæ (*Truly you say, but I dare not on account of my cowardice of heart*)
- 6) ic aras on minon bedde and eode to cyrcean (*I arose from my bed and went to church*)
- 7) swa wylce swa on wætere swymmap (*whatsoever swim in the water*)
- 8) æfter pisum we sungan middæg, and æton and druncon and slepon, and eft we arison and sungon non (*after this we sang the sext, and ate and drank and slept, and afterwards we*

arose and sang the none)

この例文は、S(VO)/V/V/V//SV/(VO) と SV 型が重複しているので特に注目しておきたい。

- 9) ic do æal swa ge biddap (I do just as you request)

この例は、SV [SV] と反復した形式を示している。次の3例は、[SV] 型である。以下従文・従節中の要素の発生は〔 〕内以示す。

- 10) forpampe hig pearle etap (*since they eat ravenously*)

- 11) oppæt hig becuman to pam nettan unforsceawodlice (*until they came to the nets unawares*)

- 12) forpam mislic wildeor wuniað on wudum (*because various beasts live in the woods*)

2-2 S-v-V 型 :

- 13) Gea, swa hig dop, ac ic nelle o pæt an deorfan ofer hig
(*Yes, they do so, but I shall not work much on them*)

- 14) nan eower nele oferwintran buton minon cræfte (*none of you will get through the winter without my craft*)

- 15) nys hit swa stearc winter pæt ic durre lutian æt ham, for ege

hlafordes mines (*it is not so severe winter that I dare lie hidden at home for fear of my master*)

以上3例はいずれも、SvV形式を示しているが、次の例はVSv型を示している：

- 16) 3ea, butan nettum huntian ic mæg (*Yes, without nets I can hunt*)

この場合むしろ、OEに於ては或る一群の副詞 *ne*, *pa* などによって動詞が前転位する場合と同様に、文脈に於いて特に重要な意味をもつ要素が文頭に位置するときに規準的な wO がくずれて動詞が前位をとる³ 場合と全く同じ条件を示しているとは考えられないだろうか。——即ち、butan nettum という副詞句によって V huntian が前転位したのであって、これは強調による現象であるとみとめたい。

尚、次の例は、SVv型を示している。従節中の発生である：

- 17) Anra 3ehwylc wat 3if he beswuncgen wæs (*Everyone Knows whether he whether he was beaten or not*)

2-3 V-S? その他の疑問文：

- 18) Forhwi ne fixast pu on sæ? (*Why don't you fish on the sea?*)

- 19) Ne canst pu huntian buton mid nettum? (*Cann't you hunt*

without nets ?)

- 20) ure gegaderungc buton gepeahtynde beon wissod ? (*will our community be instructed without the counsellor ?*)

- 21) Wille beswungen on leornunge ? (*Will you be beaten in learning ?*)

Nos. 20, 21の2例は、受動態の例で 複合形の動詞を持つ他の Periphrastic form と一諸に別に論ずるのが妥当であろうと考えるけれども、従来の普通の分類方法に随って特に第1型式の枠に加えておきたい。20の例は、SvV? という型を示し、21の例は未来時制の受動態で、主語 S と動詞 'Be' を欠いているけれども、他の例から類推して最も普通の WO をとるならば v (Sv)V? となることが考えられる。ちなみに Wyatt, A. J. *An Anglo-Saxon Reader* 及び Moore, S., Knott, T.A. *The Elements of Old English* を参照してみると、両者とも主語と 'Be' が補足してあって次のようになっている。

- 21'') Wille ge beon beswungen on leornunge ?

2-4-1 第1型式のまとめ

| 形 式 | 例 数 | Nos. |
|-----------|-----|--------|
| S-V | 9 例 | 1 ~ 9 |
| [S-V] | 3 | 10~12 |
| S-v-V | 2 | 13, 14 |
| [S-v-V] | 1 | 15 |
| V-S-v | 1 | 16 |
| [S-V-v] | 1 | 17 |
| V-S ? | 1 | 18 |
| v-S-V ? | 1 | 19 |
| S-v-V ? | 1 | 20 |
| v-(Sv)-V? | 1 | 21 |

N.B. S=Subject V=Verb

v=Auxil V.

[] 内は徒節中の発生を示す。

以下同じ。

2-4-2 第1型式の結び：

第1型式の21例について分析し考察を進めてみると、先ず平叙文に於て：

① S-V の wO の形式が支配的である印象を強くもつのである。即ち、平叙文17例のうち S-V 型を示すものは12例であり、auxil. V が入る場合 S-V 型の延長形 S-v-V 型を示すもの3例であって、この2つの形式が過半数を占めることになる。

この2つの形式は明らかに Mod.E. の wO に対応する形であって、その全く類似した形式に甚だ興味を感じずるものである。

何故ならば、S-V の wO の形式は、第1型式のみならず、他のすべての文型式の基本となるものであって、O(o)/C などの他の要素の入ってくる諸形式は基本的にはこの S-V の延長線上に成立するからである。

② この S-V 型12例及び S-v-V 型3例の中には、[S-V] が3例、[S-v-V] 1例が夫々対照的に入っていることを指摘したい。何故ならば、OE の wO の問題に於ては、従節中の発生〔 〕は、独立文中の wO に対して常に何らかの変化を示しているということはしばしば諸家⁴ によって指摘されるところであるからである。

③ V-S-v 型を示している No. 16 については、すでに指摘したけれども、主動詞 V の前置は明らかに強調による倒置 Inversion の例であると考えて差支えあるまい。

即ち、文脈中に於て重要な意味を持つところの要素が文頭に位置する時には、基本的な wO がくずれて、倒置の現象を起すことが多いのである。

④ 疑問文の4例については、全く別々の wO を示しているので、何ら支配的な法則をみとめるわけにはゆかぬが： V-S ? / v-S-V ? は夫々 Mod. E. の疑問文に対応するものであり、v-(Sv)-V ? を示す No. 21 の例も、Wyatt, A. J. *ibid.* 及び Moore & Knott *ibid.* を参照すれば、Mod. E. に対応する形を示していることが明らかである。

斯うして、第1型式の例文中にみられる形式が、Mod. E. に対応する特徴をかなり多く示しているという点は、第2型式から第5型式にいたる更に要素の延長する型式に於いて、果して同様にその特徴を示してゆくものであ

るかかどうかという問題の基本資料となるわけである。

3. 第2型式

3-1 S-V-C 型 :

22) Ic eom geanwyrde monuc (*I am a confessed monk*)

23) ic eom bysgod (*on rædinga*) and on sange (*I am engaged in reading and in singing*)

(*on rædinga*) は C テキストでは欠除していて註に補足してあるが Wyatt : *An Anglo-Saxon Reader* 及び Moor and Knott : *The Elements of Old English* に引用されているテキストには入っているので意味が充足するように特に加えておく。

24) and ic eom getrywe hlaforde minon (*and I am faithful to my master*)

25) ac 3yrstandæ3 ic wæs on huntunpe (*but I was on hunting yesterday*)

26) Ic eom fiscere (*I am a fisher*)

27) nan eower ne bip hlaford (*none of you is not master*)

- 28) Ic ne eom swa micel swelgere pæt... (*I am not so great glutton that...*)
- 29) Ic ne eom swa spediȝ pæt ic mæȝe biȝean me win (*I am not so rich that I can buy wine*)
- 30) Win nys drenc cilda ne dysȝra, ac ealdra and wisra (*wine is neither children's drink nor foolish one's, but elders' and wise men's*)
- 31) nu we synd her ætforan þe, gearuwe gehyran hwæt þu us secge (*now we are here before you, being ready to hear what you speak to us*)
- 32) Sume synt yrplincgas, sume scephyrdas, sume oxanhirdas, sume eac swylce huntan, sume fiisceras, sume fugeleras, sume cypmenn, sume scewyrhtan, sealteras, bæceras (*Some are plough-men, some shepherds, some oxherds, some also hunters, some fishers, some fowlers, some merchants, some leather-workers, salt-makers, bakers*)

この例文は, SVC/SC/SC/SC/SC/SC/SC/SC/C/C と重複して, 典型的な第2文型を示している。

尚, 次の4例は従文中の発生である:

- 33) forpam ic eom nan gluto (*because I am not so glutton*)

34) forpam ic eom hunta hys (*because I am his hunter*)

35) forpam ic neom freoh (*because I am not free*)

36) forpm he nys wis (*because he is not wise*)

上の4例は、すべて conj. forpam によって みちびかれているところの原因乃至理由を示す従文中の発生であることを注目しておきたい。

3-2 S - v - V - C 型 :

37) We wyllap beon bylewite butan licetunȝe, and wise pæt we
bugon fram yfele and don ȝoda (*We will be sincere without
any deceit, and be wise so that we may depart from the
evil and do good*)

次の例 (38) は、主語を欠いているが、上の例文と全く類似の構文であるから文頭に主語 (We) を補うことは容易に可能であろう :

38) Wyllap wesan wise (*We will be wise*)

39) We nellap swa wesan wise, forpam he nys wis, pe mid
dydrunge hyne sylfne beswicð (*We shall not be so wise,
because he is not wise, who deceives himself with delusion*)

- 40) Forpam we nellap wesan swa stunte nytenu (*Because we will not be like foolish beasts*)

No. 40 の例は、徒文中の発生であるが、Nos. 37, 38, 39 の3つの独立文中の形式と全く同様の形式を示していて何ら異なるところがない。

- 41) Ne sceal hunta forhtfull wesan (*Any hunter must not be timid*)

この例は、v-S-C-V という形を示している。否定の副詞 *ne* によって助動詞 *sceal* が主語よりも先行するのは OE に於いては最も普通の wO であるが、C が V よりも先行して中位をとっていることを注目しておかなければならぬ。

3-3 C - S - V 型 :

- 42) Hunta ic eom (*I am a hunter*)

- 43) Swype pryste pu wære pa (*Very bold you were then*)

- 44) 3eleof, micel 3edeorf hit ys, forpam ic neom freoh (*Sir, it is hard work, because I am not free*)

次の5例は徒文中の発生である：

- 45) Forpam plyhtlic pin3c hit ys 3efon hwæl (*Because it is a dangerous thing to seize a whale*)

次の例は主語を欠除しているが、上の例文によって動詞 ys の前に hit を補うことが出来るよう

- 46) Hwilon ic do, ac seldon, forpam micel rewyt me ys to sæ
(*Some-times I do, but seldom, because it is a hard rowing to go on the sea*)

- 47) Ic sec3e pæt behefe ic eom ge cin3ce and eoldormannum
and welizum and eallum follice (*I say that I am useful both for the King and for the noble men and for the rich and for all people*)

- 48) forðam cild ic eom under 3yrda drohtniende (*because I am a child living under the rod*)

- 49) forpam un3elærede we syndon and 3ewæmmodlice we
sprecap (*because we are not learned and we speak corruptly*)

- 50) forpam micel hynð and sceamu hyt is menn nellan wesan
pæt pæt he ys and pæt pe he wesan sceal (*because it is great loss and shame that people don't want to be what he is and what he must be*)

次の4例は、いずれも主語を欠いているけれども、明白に Mod.E. 'It is —to~' の形式に一致するものであり、且つ、上の Nos. 44, 45, 50 の3例に徴して夫々動詞 *ys* の前に主語 *hyt* 乃至 *hit* を補足することが出来るのである。

51) 3ebeorhlicre ys me faran to ea mid scype mynan, pænne faran mid manegum scypum on huntunge hrænes (*It is more safe for me to go to the river in my ship than to go with many ships for hunting whales*)

52) Forþam leofre ys me 3efon fisc pæne ic mæg ofslean (*Because it is dearer for me to catch fish which I can kill*)

53) ac eallum us leofre ys wikian mid þe, yrþlinc3e (*but it is dearer for us to live with you, farmer*)

54) Leofre ys us beon beswungen for lare pænne hit ne cunnan (*We would rather be beaten for learning than we don't know it*)

3-4 C - V - S / V - S - C / S - C - V 型 :

55) Hig! Hig! micel 3edeorf ys hyt (*O! O! hard work it is*)

56) Swype waxgeorn eart pu ponne... (*Very greedy you are when...*)

57) nys hit swa stearc winter pæt... (*it is not so severe winter that...*)

58) Ys, witodlice, cræft min behefe pearle eow and neodpearf
(*Verily my craft is useful and necessary to you*)

次の6例(59~64)は、従文中の発生〔S-C-V〕である。尚、64の例は受動態になっているので最後に加えておく(S-C-v-V)：

59) buton hit rihf spræc sy and behefe, næs idel oppe fracod
(*provided that it is good and proper speech, and neither vain nor nasty*)

60) buton cræft min ȝistlipe him beo (*unless my craft is hospitable to him*)

61) pe eac swilce nu has ys for cyldre and hreamre (*who also now is horse on account of cold and shouting*)

62) We ne reccap ne he us neodpearf ys (*We do not care whether he is necessary for us*)

63) Ponne hyt tima byp (*When it is the time*)

- 64) buton hlafe ælc mete to wlættan byp gehwyrfed (*without bread any meat is turned too loathing*)

3-5 V - S - C ? その他の疑問文 :

- 65) Ys pæs of pinum geferum ? (*Is this of your companion ?*)

- 66) Nis hit of minon ʒeweorc ? (*Is it not of my workmanship ?*)

- 67) Wære pu todæg on huntnope ? (*Were you on hunting today ?*)

- 68) Hu wære pu dyrstig ofstikian bar ? (*How were you daring to stab a boar ?*)

- 69) Hwæt ʒif hit unclæne beop fixas ? (*What if they are unclean fishes ?*)

この疑問文は〔SVC〕型を示しているが、Moore & Knott *ibid.* に引用されているテキストでは V と C が交替して head-word の fixas は形容詞の unclæne を pre-adjunct にして前転位となる。随って形式は〔SCV〕ということになって、① 従文中に於ける V の後置 ② 形容詞と名詞の密接な結びつきの関係という2点からみるならば、Moore & Knott に引用

されている次のような wO の方がむしろ妥当な形式であると考えられるのである：

69") Hwæt 3if hit unclæne fixas beop ?

しかしながら、先に挙げた Wyatt *ibid.* に於ては筆者が使用しているテキストと同じ wO のままである。

テキストの註解によれば、MS 'J' では文末の fixas はなくて、beop が2回重複していると云う。fixas がなければ、いずれにしても問題にはならないが、head-word として fixas が記入されていてその位置が2つに分れているとなかなか重要な wO の問題となってくる。

そこで、筆者は fixas がいずれかの位置に記されているものとして（参照している3つのテキストがすべて fixas をいずれかの位置に記入してあるのだからそれを欠除したものとは考えられない）論を進めて行こう。

すでに述べたように、① これまで取り上げた例文中に於いても、又未だ取り上げていない他の例文中でも head-word は pre-adjunct の形容詞に直ちにつづいて隣接する例が最も普通である。唯、この点については未だ正確な資料を集めていないので将来改めて再び研究する機会を持ちたいと思うのである。

今のところ、諸家の意見を挙げておくだけにとどめておきたい。もっとも、これは一般的な原則を云ったもので、例外については一つ一つ詳細に検討しなければならぬことは云うまでもない。

① Alston : *An Introduction to Old English* p.72 "Adjectives usually precede the nouns they modify..."

② R.Quirk & C. L. Wrenn : *An Old English Grammar* p.87 "It is

normal for both to precede the noun ...”

⑧ H.Sweet : *A New English Grammar* p.7

“Assumptive adjective-words precede their head-words...”

次に、② OE 従節中では一般に定動詞は後置されて文末に位置する例が多いという一般的な原則を考慮しなければならぬ。事実、筆者の集めた資料のうちにもその例はかなり多い（例えば、本論の 3-3 C-S-V 型では従文中の発生が 5 例もあり、又 2-4 の Nos. 60, 62, 63 の 3 例も同様の条件を持つことはすでに指摘した）のであるが、このテキストのように IOE では、むしろ次第に独立文中に固定してきている S-V-O/C 型が、従文中にも一般的になる傾向を示している時代であるから、この論拠もかなり弱いものと云はざるを得ない。

そしてもしも、従文中の定動詞が文尾に発生すると云う一般的原則を適用するならば、先に述べた *pre-adjunct* の形容詞とその *head-word* である名詞の密接に固定した連続の原則 ① と矛盾しないで都合よく調和するように考えられるけれども、又、一方で疑問文では S-V よりもむしろ V-S という倒置の形式をとることが多いことと一致しないように見える。しかし 69 の例は省略された主節にみちびかれた従節中の *wO* の問題であるから、この場合はむしろ [] 内の発生は平叙文の *wO* と一致しなければならぬ。とすれば、この [ScVC] は → [SVcC] 或いは → [ScCV]（小さい *c* は *a. unclæne* を示す）のどちらかの *wO* をとらねばならない。或いは又、*fixas* を欠除したものとして除外して、(*head-word* を示す大きな *C* を消して *adj.* を示した小さな *c* を → *C* とすれば) → [SVC] 又は → [SCV] とすることが出来よう。こうして [SVcC] = [SVC], [ScCV] = [SCV] となるが、これを更に簡単にすれば結局 [SVC] か

〔SCV〕のどちらかの wO が妥当であるかということに問題を切り下げても差支えないかと思う。問題をここまで切り下げても何ら本質的な変更乃至切り捨はないのだから分析の進め方としては異論はないかと思うのである。

斯うして、この問題は最終的には〔SVC〕か〔SCV〕か或いは fixas を除外するかという三者択一になるが、fixas は事実 MS に記載されてある語であるならば、これを除去するのは不都合なことであり、便宜主義に墮することになる。どうしてもこの語を C テキストとのまにしておくならば更に一つ preadjunct a. と head-word n. の位置についても考察しなければならないことになる。筆者としては、現在の段階ではこの関係について論ずることを避けて、V : C の関係についてだけ考慮したい。とすれば、すでに述べた二つの条件即ち、① 原則として形容詞と名詞は（特別その連続をさまたげる条件がなければ）密接に連続して固定すべきである。② 従文中では、V の位置は後位（文の末尾）をとると云う伝統的な wO の原則——この二つの条件に照して Moor & Knott のテキストに賛意を表し、残された問題についての追求は、更に将来改めて検討したいと思うのである。

- 70) Wille 3e beon prættize oppe pusenthiwe on leasun3um, lytize on spræcum, on3læwlice, hindeegepe, wel sprecende and yfele pencende, swæsum wordum underpeodde, facn wiðinnan tyddriende, swa swa ber3yls metton ofer3eweorke, wipinnan full stence ? (*Shall you be sly or shifty in artifice, crafty in speech, artful, deceitful, speaking good and thinking evil, addicted to suave words, abounded in deceit, just as tombs painted the monument, filled stench within ?*)

3-6-1 第2型式のまとめ：

| 形 式 | 例 数 | Nos. |
|-----------|-----|-------------------|
| S-V-C | 11 | 22~32 |
| [S-V-C] | 4 | 33~36 |
| S-v-V-C | 3 | 37~39 |
| [S-v-V-C] | 1 | 40 |
| v-S-C-V | 1 | 41 |
| C-S-V | 6 | 42~44, 51, 53, 54 |
| [C-S-V] | 7 | 45~50, 52 |
| C-V-S | 2 | 55, 56 |
| V-S-C | 2 | 57, 58 |
| S-C-V | 1 | 64 |
| [S-C-V] | 5 | 59~63 |
| V-S-C ? | 4 | 65~68 |
| [S-C-V] ? | 1 | 69 |
| v-S-V-C ? | 1 | 70 |

N.B. C=Complement

3-6-2 第2型式の結び：

49例中、平叙文の形態をとるもの43例について先ず考察しよう。この43例中、特に支配的な wO を示すものは S-V-C 型15例と、C-S-V 型の13例である。

① 第2型式に於ても、第1型式の場合にみられた同様に、Mod.E. に対応する S-V-C 型が最も多い例を示していることは注目しなければならない。auxil. V が入って S-v-V-C 型を示すものが4例あるが、この形式が S-V-C 型の延長形とみとめるならば、S-V-C (15例) と S-v-V-C (4例) で計19例になる。

この形式に対して、C-S-V 形式を示すものは13例であり、C-V-S 型を示す2例を含めて、C の前位型は15例、[S-C-V] 型は6例であるから、——第2型式の平叙文に於ては、S-V-C 型、C-S-V 型及び [S-C-V] 型の3つの形式が最も多数の例を示している。

ところが、詳細に検討してみると：① C-S-V 型13例のうち7例は〔 〕内の発生である。② S-C-V 型の6例は、うち5例が〔 〕内の発生である。——これら〔 〕内の発生の12例にみられる wO の特徴は V の後位という点である。

この特徴は、明らかに条件づけられたものとみとめなければならない。即ち、OE に於ける文の構造では、独立文中の wO の形式に比して、従節中に於てはしばしば特徴的な wO の形式を示すことが明らかな事実として指摘されているのである。この事実を考慮して、C-S-V の13例のうち従節中の発生7例については条件づけられたものとして保留するならば、残りの6例について考慮すればよいわけである。

斯うして、従節中の発生という条件のない残りの C-S-V 型6例についてみると、それらのすべてについて、C の前位が文脈中の意味の内容からして強調のための倒置であると判断せざるを得ない。(この判断について一々

例を挙げて繰返さない。cf. Nos. 42~44, 51, 53, 54)

このことは、C-V-S 型を示す Nos. 55, 56 の 2 例についても同様である。即ち、No. 55 に於ては adjunct a. micel が head-word C にかかってその意味を強め、No. 56 では同様に ad. Swype が C を強調して修飾している。

これに反して、S-V-C 型の 15 例及び S-v-V-C 型の 4 例には、文脈中に何ら特徴的な条件がみとめられない。

随って、第 2 型式に於ては、S-V-C 型の wO 形式が支配的な形であることを仮定してもよいのではなかろうか。

② 特に、S-V-C 型の 15 例中には〔S-V-C〕型 4 例、S-v-V-C 型の 4 例中には〔S-v-V-C〕の 1 例と計 5 例の従節中の発生が含まれていることは、本作品に於ては、OE に特徴的である伝統的な wO の形式——従節中に於ける V の後置と云う条件づけられた wO の形式が独立文乃至主節中の wO によって影響されて、次第にその特徴を失いつつあるという過渡的な変化の状況を観察することが出来るのである。

③ 疑問文に於ては、平叙文の S-V に対して V-S? の形式が多いことを指摘しておきたい。No. 70 の v-S-V-C? 型は Mod.E. に全く一致する wO の形式を示している。

4. 第 3 型式

4-1 S - V - O 型 :

- 71) ic sinc3e ælce dæg seofon tida mid 3ebroðrum (*I sing seven services every day with brothers*)

- 72) Ic ga ut on dæ3ræd, pywende oxon to felda, and iuzie hi3 to syl (*I go out at dawn, driving oxen to the field, and yoke them to the pillar*)
- 73) Ic hæbbe sumne cnapan pywende oxon mid 3adisene (*I have some boys (who are) driving oxen with iron-goad*)
- 74) ic ofslea hi3 on pam maxum (*I kill them in the nets*)
- 75) Mid swiftum hundum ic betæce wildeor (*With swift dogs I point to a beast*)
- 76) Ic utwyrpe pa unclænan ut (*I throw the unclean (fish) out*)
- 77) Ic ne mæ3 swa fela swa ic mæg 3esyllan (*I cannot avail so many as I may sell*)
- 78) On feala wisan ic beswice fuzelas : hwilon mid neton, mid grinum, mid lime, mit hwistlun3e, mid hafoce, mid treppan (*In many ways I ensnare fowls : sometimes with nets, with snares, with lime, with whistling, with hawk, with trap*)
- 79) manize fedap pa 3etemodon ofer sumor (*many (people) feed the tamed past Summer*)

- 80) Hundas bedrifon hyne to me, and ic pær toʒeanes standende færlice ofstikode hyne (*Dogs drove it to me, and there standing in the way I stabbed it to death quickly*)
- 81) Hwilon ic ʒehyre cnyll and ic arise ; hwilon lareow min awecp me stiplice mid ʒyrde (*Sometimes I hear the sound of bell and I get up ; sometimes my teacher awakes me harshly with the rod*)
- 82) Wel heo licap us, ac pearle deoplice sprycst and ofer mæpe ure pu forptyhst spræce : ac sprec us æfter urum andʒyte, pæt we magon understandan pa ping pe pu specst (*It pleases us much, but you speak very deeply and you speak beak beyond our ability : but speak us according to our understanding so that we may understand the thing which you speak*)
- 83) Ic bruce hwilon pisum mettum, oprum mid syfernysse, swa swa dafnað munuce, næs mid oferhropse, forpam ic eom nan ʒluto (*Sometimes I enjoy these meat, with moderation, so as to be fitting for monk, and without voracity*)
- 84) æfter pisum we sunʒan middæg, and æton and druncon and slepon, eft we arison and sunʒon non (*after this we sang the sext, and ate and drank and slept, and afterwards we arose and sang the none*)

85) Ic astize min scyp mid hlæstum minum, and rowe ofer sælice dælas, and cype mine pin3c, and bic3e pinc3 dyrwyrðe þa on þisum lande ne beop acennede (*I board on my ship with my freight, and sail over the high sea and sell my things, and buy precious things which are not produced in this land*)

86) Ic brede me max and sette hi3 on stowe 3ehæppre, and 3etihte hundas mine þæt wildeor hi3 ehton (*I weave me nets and set them in a suitable place, and entice my dogs so that beasts may chase them*)

87) peah mæni3e 3efop hwælas, and ætberstap frencysse, and micelne sceat þanon be3ytap (*yet many (people) catch whales, and escape danger and thence acquire great profit*)

上文中の mæni3e は a. が独立して名詞同義語として用いられているものである。

88) He scryt me wel and fett and hwilon sylp me hors oppe beah, þæt þe lustlicor cræft minne ic be3aanc3e
(*He dresses and feeds me well and sometimes gives me horse or armlet, so that more willingly I may practise my craft*)

89) Efne, buter3epweor ælc and cys3erunn losap eow buton

ic hyrde ætwese eow, pe ne furpon pæt an wyrtum eowrum
butan me brucap (*Lo, all butter-curd and cheese-curd would
go bad to you unless I the keeper am present for you,
and you could not use even your vegetables without me*)

- 90) Hi3 fedap hi3 sylfe and me on wintra, on lenc3ten ic læte
hi3 ætwindan to wuda, and 3enyme me briddas on hærfæste,
and temize hi3 (*They feed themselves and me in winter,
in spring I let them escape to the wood, and I catch young
birds in autumn, and tame them*)

- 91) 3ea, leof, ic hæbbe : on forewerdne mor3en ic drife sceap
mine to heora læse, and stande ofer hi3 on hæte and on cyle
mid hundum, pe læs wulfas forswel3en hi3; and ic a3enlæde
hi3 on heora loca, and melke hi3 tweowa on dæ3
(*Yes sir, I have : in early morning I drive my sheep to
their pasture, and stand by them in the heat and in the
cold with dogs, lest wolves should devour them, and I lead
them back to their fold, and milk them twice a day*)

この例では, SVO [SVO] SVO/VO と主節にも従節中にも同一の形式の
wO が並列しているのを観察することが出来る。主節・従節に並行してこ
の形式が発生している例をもう 1 例加えておこう :

- 92) Pænne se yrplin3c unscenp pa oxan, ic læde hi3 to læse
(*When the farmer unyoke the oxen, I lead them to the*

pasture)

次の3例はいずれも〔 〕内の発生である：

- 93) 3ap peawlice ponne 3e 3ehyran cyricean bellan, and 3ap
into cyrcean (*Go obediently when you hear the church bell,*
and go to church)

- 94) Ealu, 3if ic hæbbe, oppe wæter 3if ic næbbe ealu
(*Ale, if I have, or water if I have no ale*)

- 95) eow manap eower lareow pæt 3e hyrsumian 3odcundum larum
and pæt 3e healdan eow sylfe ænlice on ælcere stowe
(*your teacher advise you that you should be obedient to the*
divine doctrine, and that you should hold yourself deco-
rously in each place)

この例では、従節中に2つの同一の wO が発生している。〔SVO/SVO〕

次に、以下に挙げる例は、又再び主節に戻って稍冗長ではあるが、SVOの形式に O が5ヶから17ヶ重複して連続発生する例であって、これら4例によってこの中途の段階に於いて SVO の wO が稍支配的・固定的であるという印象を強く持つのである：

- 96) Ic 3efeo heortas and baras and rann and ræ3an and hwilon
haran (*I catch harts and boars and roe deer and deer and*
sometimes hares)

- 97) Ic astizie min scyp and wyrpe max mine on ea, and anczil
vel æs ic wyrpe and spyrtan, and swa hwæt swa hiȝ ȝe-
 hæftað ic ȝenime (*I board on my ship and throw my net on*
the river and I cast hook or bait or creel and I take
whatever they catch)
- 98) Ic hæbbe smipas, isene. smipas, ȝoldsmip, seoloforsmip,
armsip, treowwyrhton and maneȝra opre mistlicra cræfta
biȝȝenceras (*I haue smiths, iron-smith, goldsmith,*
silversmith, brass-smith, carpenters and many other
workers of various crafts)
- 99) Ic biȝȝe hyda and fell, and ȝearkie hiȝ mid cræfte minon,
wyrce of him ȝescy mistlices cynnes, swyftleras and sceos,
leperhosa and butericas, bridelpwancȝas and ȝeræda, flaxan
vel pinnan and hiȝdifatu, spurlepera and hælftra, pusan and
fætelsas (*I buy hide, skin and prepare them by my craft,*
and make of them shoes of various kinds, slippers, shoes,
leggings and leather-bottles, reins, trappings, flasks or
bottles and leather-bottles, spur-straps, halters, bags,
vessels)

次の6例は、SVO型に auxil. Vが入って SvVOの形式を示しているものである。Nos. 100, 101, 102 は主節に於ける発生例であり、Nos. 103, 104, 105 の3例は従節中の発生の例である。〔SvVO〕

- 100) furpon litlinc3as nellap forbi3ean me (*even children will not despise me*)
- 101) ælc dæ3 ic sceal erian fulne æcer oppe mare (*every day I shall plough whole the field or more*)
- 102) ac peahhwæpere ic wolde betwenan leornian sprecan, on leden 3ereorde (*nevertheless I will learn to speak in Latin in the meantime*)
- 103) 3ea, ic cann. Hwæt sceoldon hi3 me buton ic cupe temian hi3 ? (*Yes, I can. What use would they be to me if I couldn't tame them ?*)
- 104) Forpam ic nelle fedan hi3 on sumera, forpampe hi3 pearle etap (*Because I cannot feed them in summer, as they eat very much*)
- 105) forpam we sylfe ma3on seopan pa pin3c pe to seopenne synd, and brædan pa pin3c pe to brædene synd. (*because we ourselves can boil the things which are to be boiled, and broil the things which are to be broiled*)

4-2 S O V 型 :

- 106) Ic heortan mannes ƷestranƷie (*I strengthen man's heart*)
- 107) Nan eower blisse brycð on ƷererduncƷe oppe mete, buton cræft
min Ʒistlipe him beo (*None of you can enjoy satisfaction
at meal or at table, unless my craft is hospitable to
them*)
- 108) Eala, munuc, Ʒe me tospycst, efne, ic hæbbe afandod Ʒe
habban Ʒode Ʒeferan and Ʒearle neodƷearfe; and ic ahsie Ʒa
(*Oh, monk, you address me, lo, I have proved that you
have good and very necessary compaion ; and I ask then*)
- 109) Ʒanon ic me afede and min wif and minne sunu (*whence I
feed myself and my wife and my son*)

この例文は、これに先行する文と対照してみて、従属の関係にあるかどうか
が稍曖昧であるけれども、conj. Ʒanon によってみちびかれている節である
からやはり先行する主節に従属する節と判断しておきたい。

以下の9例(うち3例は auxil. V を含む)は、すべて従節中の発生の例
である。[SOV] / [SvOV] など :

- 110) Eorptilp, forƷam se yrplinz us ealle fett ((*It is*) *Agriculture,
because the farmer feeds us all*)

- 111) Swype waxȝeorn eart þu þonne þu ealle þinȝc etst þe
 þe toforan (*You are very greedy as you eat all the things
 which are before you*)
- 112) Ic næs, forþam wærlice ic me heold (*I was not, beause I
 held myself circumspectly*)
- 113) ȝif ȝe me ut adriȝap fram eowrum ȝeferscype, ȝe etap
 wyrta eowre ȝrene, and flæscmettas eowre hreawe, and furpon
 fætt broþ ȝe mazon (*if you drove me out of your society,
 you (must) eat your vegetables green, and your meat
 uncooked, and you must have even rich broth uncooked*)
- 114) Ȝif ȝe forþy me fram adryȝap, þæt ȝe þus don, þonne
 beo ȝe ealle prælas, and nan eower ne biþ hlaforð ; and
 peahhwæpere buton cræfte minon ȝe ne etap (*if you, there-
 fore, drive me away, as you do thus, then you all be
 thralls and none of you could not be master ; and moreover
 you could not eat without my craft*)
- 115) þæt anra ȝehwylc cræft his ȝeornlice beȝanȝe, forþam
 se þe cræft his forlæt, he byþ forlæten fram þam cræfte
 (*so that eveyone could practise his craft diligently,
 because he who neglects his craft, he is neglected by the
 craft*)

この例は従節中の S-O-V 形式が2つ並んでいる。〔SOV〕 / 〔SOV〕

次の3例は、Oの中位型SOVに auxil. Vが入っているものでいずれも従節中の発生である。〔SvOV〕 但し118の例は〔SOVv〕を示している：

116) bæcere, hwam fremap (cræft pin) oppe hwæper we butan
pe mazon lif adreo3an? (*baker, what does your craft
make, or whether we may endure the life without you?*)

117) forpam ic cann opre, na pæt ænne, ac eac swilce manize
3efon (*because I can seize not only that one, but alto many
others*)

118) Ic ne eom swa micel swel3ere pæt ic ealle cynn metta on
anre 3ereordin3e etan mæ3e (*I am not so great glutton
that I may eay all kinds of food at one meal*)

4-3 O - S - V / V - S - O 型：

119) 3yt flæscmettum ic bruce, forðam cild ic eom under 3yrda
drohtniende (*As yet I partake of meat, because I am a child
living under the rod*)

120) Mane3a pin3 ic dyde (*I did many things*)

121) hwylon forlidenesse ic polie mid lyre ealra pin3a minra,

uneape cwic ætberstende (*sometimes I experience shipwreck with the loss of all my things, hardly escaping alive*)

- 122) heora loca ic hæbbe, on pært and cyse and buteran ic do
 (*I have their enclosure, where I make cheese and butter*)

この例は、OSV の形式が二つ重なっている。OSV//O/OSV

次の例も重文に同じ形が重複しているが、これらのOが前位をとる例は、質問に対して特に目的語となる名詞を強く主張したいという強調の現象が観察出来るのである。即ち、文脈中に特別の意味乃至重要性をもつ語の要素が含まれているときは、それらの要素が文頭に出て wO がくずれるのは当然のことであると言はなければならない：

- 123) Heortas ic 3efen3c on nettum and bar ic ofslöh
 (*I seized harts in the nets and I killed a boar*)

更に、次の例は各1ヶだけの S/V を持つ単文の中に7ヶのOが含まれて、それらの目的語がすべて SV に先行して重複している。これら前置されたOの強調は明らかであるが、この例文を先の Nos. 96, 98, 99 の3例と比較してみると、あまりにも対照的な相違に驚かされるのである。

ただ前の Nos. 96, 98, 99 の例は、質問に対する返答ではあるがむしろ説明的な内容になっているのに対して、次の例はOを特に強調していることが理解出来る：

- 124) Wyrta and æizra, fisc and cyse, buteran and beana and ealle clæne pin3c ic ete mid micelre pancun3e (*Vegetables and*

eggs, fish and cheese, butter and beans and all clean things I eat with much thanks)

- 125) Eala, trywwyrhta, forhwi swa sprycst pu, ponne ne furpon an pyrl pu ne miht don? (*Oh, carpenter, why do you say so, as you cannot make even a hole?*)

この例は疑問文の中に含まれている従文中の発生である。〔OSvV〕

- 126) On pisse niht, pa pa cnyll ic 3ehyrde, ic aras on minon bedde and eode to cyrcean, and san3 uhtsan3 mid 3ebroðrum ; æfter pa we sun3on be eallum hal3um and dæ3redlice lofsan3as (*On this night just when I heard the bell, I arose in my bed and went to church, and sang the matins with brothers ; after these we sang about all the saints and the matutinal songs of praise*)

この複文中では、主節には SVO の形式が2回発生し、従節中でい、〔OS V〕の wO が発生している。主節と従節のこの対照を注目しておきたい。

〔OSV〕 SVO/SVO

- 127) Pearle fremap cræft min eow eallum (*My craft benefits you all very much*)

この例は、VSOの wO を示している。但し、このVの前置は ad. pearle によって引寄せられて転位したものと考えられる。

- 128) Hwæt rece we hwæt we sprecan, buton hit riht spræc sy and behefe, næs idel oppe fracod (*We care about whatever we speak, as long as unless it is right and necessariy and not useless or nasty at all*)

この例文の主節にみられる hwæt rece we / hwæt we sprecan の二つの節は、形式的には何らの文法的記号がないので、parataxis として二つの節の間に V. bip を補って、内容を把握することが出来るが、むしろ hwæt / hwæt を一つの相関詞として捉える方が妥当であろう。

即ち、hwæt (*anything* → *whatever*) の強意的な効果を意図した反復によって、その意味を明確にするための表現ではなかろうか。即ち、文頭の hwæt はむしろ単なる強調的な手段としての形式的繰返しにすぎないので、Hwæt rece we hwæt … は → rece we hwæt … 更に → we rece swa hwæt swa we sprecan と復元出来る性質のものではないか。

そうすれば、[] 内の hwæt we sprecan は名詞節であって主節の V. rece の O として理解することが出来る。即ち、OVS [OSV] は → VSO の形式として理解できるのではないかと考えるのである。しかし、この推論は仮定として保留しなければならない。随ってここに補足して加えておくのである。

次に、もう一例補足しておきたい。この例はかなり自由な wO の幅を示しているようにみられる：

- 129) Ʒewyslice pænne mare ic do. Ic sceal fyllan binnan oxan mid hiƷ, wæterian hiƷ, scearn heora beran ut (*Certainly still more I do. I shall fill oxen's mangers with hay, and give*

them water and carry their dung out)

この例文中の *mare* は *n.* の比較級とすれば、第一の文は *SV* → *OSV* という形式とみとめることも可能であるが、原文のラテン語註が *plus* と *ad.* になっているので、*mare* は *ad.* として *O* にとらないでおいた。更に、*binнан oxan* の *oxan* はテキストの註によれば、属格 *gen. pl.* 又は与格 *dat. pl.* のいずれであるか解決されていないが、ここでは一応 *gen. pl.* として挙げておきたい。

4-4 V - S - O ? 型 :

130) *Hu bezæst pu weorc pin ?* (*How do you perform your work ?*)

131) *Hæfst pu æni3ne 3eferan ?* (*Have you any companion ?*)

132) *sceaphyrde, hæfst pu æni3 3edeorf ?* (*shepherd, have you any labour ?*)

133) *Canst pu æni3 pin3 ?*

— *Ænne cræft ic cann* (*Can you do any thing ? — I can do one craft*)

134) *Hu bezæst pu cræft pinne ?* (*How do you perform your work ?*)

- 135) Hu 3efenc3e pu hi3 ? (*How did you catch them ?*)
- 136) Hu 3efehst pu fixas ? (*How did you catch fishes ?*)
- 137) Hwær cypst pu fixas pine ? (*Where do you sell your fishes ?*)
- 138) Hu beswicst pu fuzelas ? (*How do you deceive fowls ?*)
- 139) Hæfst pu hafoc ? — Ic hæbbe
(*Have you a hawk ? — I have*)
- 140) Hu afest pu hafocas pine ? (*How do you feed your hawks ?*)
- 141) forhwi forlæst pu pa 3etemedon ætwindan fram pe ?
(*why do you let the tamed escape from you?*)
- 142) Ne drincst pu win ? (*Don't you drink wine ?*)

以上の13例を観察すると、一般に疑問文に於ける V-S の wO は殆んど固定的なものであろうという確信を得るのであるが、この wO の形式をとらないものはどういう条件によって発生するものであるかについては次節で詳細に検討してみたい。

次の2例はいずれも省略されている語があるけれども、上の13例の事実によって夫々に省略されこいる主語 S(143) と動詞 V (144) の位置を何らの

躊躇なしに決定することが出来る筈である：

143) Hæfst ænizne wisne ʒepeahtan ? (*Have (you) any wise counsellor ?*)

144) Hwanon sylan scear oppe culter pe na ʒade hæfp buton of cræfte minon ? (*Whence (have) ploughmen share or coulter, who has no goad without my craft ?*)

No. 143 の例には V. hæfst (2sg. pres.) のあとに S の pu を, No. 144 の例では疑問詞 hwanon と主語 sylan (pl.) の間に V. habbap (3pl. pres.) を補足して挿入することが出来よう。但し、後者は、V. habbap を挿入するとすればあとにつづく従節の V. hæfp (3sg. pres.) と数に於いて一致しないけれども、OE に於てはこのような数の不一致はしばしば散見されるところでやむを得ないことであろう。

斯うして、本節に於いては一般的に疑問文に於ける SV の倒置形→VS の wO が殆んど固定的なものであるという印象を深めたのであるが、この wO は又、Mod. E. に対応する形式である。Mod. E. では、これらの疑問文に auxil.V が入ってくると V-S→v-S-V となり、目的語 O があれば V-S-O→v-S-V-O となるのであるが、次に挙げる 4 例は丁度 Mod. E. に於ける対応と一致するような wO の形式を持っているので、ここに補足しておきたい：

145) Wylt pu fon sumne hwæl ? (*Can you catch a whale ?*)

146) Canst pu temian hiʒ ? (*Can you tame them ?*)

147) Hwænne wylle 3e syn3an æfen oppe nihtsan3c ?

(*When will you sing the vespers or the compline ?*)

148) Wilt pu syllan pin3c pine her eal swa pu hi 3ebohtest

pær ? (*Will you sell your things here all that you bought (them) there ?*)

4-5 O - V - S ? 型 :

149) Ic axie pe, hwæt sprycst pu ? (*I ask you, what do you speak ?*)

150) Hwæt hæfst pu weorkes ? (*What have you for (your) work ?*)

151) Hwæt cunnon pas, pine 3eferan ? (*What do they know, your companion ?*)

152) Hwæt sæ3est pu, yrplin3c ? (*What do you say, farmer ?*)

153) Hwæt mare dest pu on dæ3 ? (*What more do you do every day ?*)

154) Eala, oxanhyrde, hwæt wyrst pu ? (*Oh, oxherd, what do you work ?*)

- 155) Hwilce wildeor swypost ʒefehst pu ? (*What beast did you seize especially ?*)
- 156) Hwæt ʒelæhtest pu ? (*What did you seize ?*)
- 157) Hwæt dest pu be pinre huntunʒe ? (*What do you do with your game ?*)
- 158) Hwylcne cræft canst pu ? (*What craft can you do ?*)
- 159) Hwæt beʒyst pu of pinum cræfte ? (*What do you get by your craft ?*)
- 160) Hwilce fixas ʒefehst pu ? (*What fishes do you catch ?*)
- 161) Hwæt fehst pu on sæ ? (*What do you catch in the sea ?*)
- 162) Hwæt sæʒst pu, fuʒelere ? (*What do you say, fowler ?*)
- 163) Hwæt sæʒst pu, mancʒere ? (*What do you say, merchant ?*)
- 164) Hwæt ytst pu on dæʒ ? (*What do you eat every day ?*)
- 165) Hwæt mare ytst pu ? (*What more do you eat ?*)

- 166) And hwæt drincst pu ? (*And what do you drink ?*)

以上18例は、すべて直接疑問文に於ける OVS の wO の発生例であって、これらのOはいずれも疑問詞（句）である。随って、疑問詞による直接疑問（所謂、特殊疑問文）では、丁度又、Mod. E. に対応するように疑問詞が文頭に位置をとり、それにつづいて S-V の倒置の wO が発生するという形式が殆んど固定的なものであることを観察することが出来る。ただ、No. 149 の第1例は一応間接疑問文であるような印象をうけるけれども OE に於いては、従属節の基準を判断すべき主節、従節の明確な形式は未だ十分に固定していないのだから、この No. 149 の例文はむしろ直接疑問文の範疇に入れておきたい。斯うして、次の例文には S が欠除しているが（というよりも、むしろ、呼びかけとして文頭に明白であって、これを外位置 *Extraposition* の S とみとめることも出来るが）先の18の例文に照らして、欠除している S を（又は、外位置をとっている S を）直ちに定位置即ち V. *dydest* (2sg. p.) の後、*ad. todæ3* の前に置くことが出来る：

- 167) Pu, *cnapa*, hwæt dydest *todæ3* ? (*You, boy, what did you do today?*)

次の例は、やはり O-V-S の形式を持つ疑問文であるが、疑問詞は疑問副詞 *hu* であるから O は疑問詞ではなくて、人称代名詞の与格である。この例文の V. *licap* は、非人称動詞 *lician* の 3sg. pres. であるから、*peos spæc* (*sic. this talk*) がこの V の S であって、*3e* の与格 *eow* はこの V の O として再帰用法を示しているのである：

- 168) *Eala*, *cild*, *hu* eow licap peos spæc ? (*Oh, child, how do you enjoy this talk ?*)

さて、次の2例は、先の特殊疑問文 O-V-S 形式に auxil. V が入っているものであってこれも Mod. E. に対応する wO を示している：

169) Hwæt wille 3e sprecan ? (*What will you speak ?*)

170) Hwiltne hafoc wilt pu habban, pone maran hwæper pe pæne læssan ? (*Which hawk do you want, the larger one or the smaller one ?*)

4-6 S - V - O ? 型：

171) Hwa bi3p hi ? (*Who buys them ?*)

172) Hwa awecp pe to uhtsanc3e ? (*Who awakes you for the matins ?*)

173) Hwa 3efylp cleafan his oppe hedderna buton cræfte minon ? (*Who could fill his cellar or store-house without my craft ?*)

174) Hwylc manna purhwerodum purhbrycp mettum buton swæcce sealtes? (*Who could enjoy the very sweetness of meat to the heart without the flavour of salt's ?*)

175) Hwilt eower ne notap cræfte minon, pone hus and mistlice

fata and scypa eow eallum ic wyrce ? (*Who of you will not use my craft, when I make you all house and various vessels and ships ?*)

以上5例の主語Sはすべて疑問詞である。この場合Vが中位をとってOが後位に位置するのは、やはり Mod. E. に対応する形式である。

斯うして、前節4—5の21例 (Nos. 149~167, 169~170) と合はせて26例によって、直接疑問文に於ける疑問詞の前位の形式は今までのところ一つの例外もなく、殆んど固定的な wO の形式であることをみとめることが出来る。疑問詞の前位という形式は、第3型式に於てばかりでなく OE の他の型式にも普遍的なものであるかどうかは又、別に論ずることにしよう。

4-7-1 第3型式のまとめ：

| 形 式 | 例 数 | Nos. |
|-----------|-----|--------------|
| S-V-O | 26 | 71~92, 96~99 |
| [S-V-O] | 3 | 93~95 |
| S-v-V-O | 4 | 100~102, 129 |
| [S-v-V-O] | 3 | 103~105 |
| S-O-V | 3 | 106~108 |
| [S-O-V] | 7 | 109~115 |
| [Sv-O-V] | 2 | 116, 117 |
| [S-O-V-v] | 1 | 118 |

| | | |
|-----------|----|----------|
| O-S-V | 6 | 119~124 |
| [O-SV] | 1 | 125 |
| [O-S-v-V] | 1 | 126 |
| V-S-O | 2 | 127, 128 |
| V-S-O ? | 15 | 130~144 |
| v-S-V-O ? | 4 | 145~148 |
| O-V-S ? | 19 | 149~167 |
| O-V-S ? | 1 | 168 |
| O-v-S-V ? | 2 | 169, 170 |
| S-V-O ? | 5 | 171 175 |

N.B. O=Object

4-7-2 第3型式の結び：

第3型式は105例，更にこれらの重文，複文などに含まれる節の21例を含めて延べて126例について考察してみたい。

この型式では，例が比較的に多いので，多少多岐にわたって統計上混乱する恐れもあるので，特殊の条件にあるとみとめられるものは一々照合して，可成本質的な wO の特徴をみちびき出すようにしたい。

すでに，第1型式及び第2型式に於て，夫々 Mod. E. に対応するところの wO の形式が本作品に於て最も支配的な wO であることをみとめたの

であるが、① 第3型式に於ても亦、S-V-O 型が稍支配的な wO の形式であるとみとめることが出来る。

即ち、平叙文の59例中、S-V-O 型を示すものは29例であり、更に auxil. V を含む延長形 S-v-V-O 型7例を加えれば、Mod. E. に対応するこの形式は36例となる。

このうち〔SVO〕は3例、〔S-v-V-O〕は3例で、従節中の発生は6例を挙げることが出来る。

次に多い wO の例は、S-O-V 型の10例と、この形式に auxil. V の入った形とみとめられる〔S-v-O-V〕2例及び〔S-O-V-v〕の1例を加えることが出来る。特に、この形式で注意しなければならぬ点は、S-O-V 型の10例のうち7例は〔 〕内の発生であり、又、auxil. V を含む3例はいずれも〔 〕内の発生であることを忘れてはならない。

次に、O-S-V の wO の形式をとる7例、及び auxil. V を含む〔O-S-v-V〕型1例を加えてOの前位型8例についてみると、O-S-V 型の7例中、主節乃至独立節中の発生は6例であることに注目したい。

しかしながら、これら6例(Nos.119~124)について仔細に検討してみると、やはりOの前置には夫々文脈中に、強調による wO の倒置の特徴をみとめざるを得ないのである。斯うして、第3型式の平叙文に於ては：

- ① Mod. E. の wO の形式に対応する S-V-O の形式が支配的であること。
- ② Vの後置例は、特に〔S-O-V〕型7例と、〔S-v-O-V〕2例、〔S-O-V-v〕1例を含めて計10例から、従節中の発生に多くみられること。
- ③ 〔S-V-O〕3例、〔S-v-V-O〕3例の6例からみて、従節中にも、主節の wO の形式がかなり普通である傾向を示していること。

以上の3点について特に注目しておきたい。尚、ちなみに105例中の重文、複文中に含まれている節の21例についてみると次のようになる：

| | |
|-----------|---|
| S-V-O型 | —— 7 例 (Nos. 80, 81, 82, 84, 91, 92, 126) |
| [S-V-O] | —— 3 // (Nos. 91, 95, 108) |
| [S-v-V-O] | —— 1 // (No. 82) |
| [S-O-V] | —— 5 // (Nos. 86, 89, 115, 144, 148) |
| O-S-V | —— 3 // (Nos. 88, 97, 123) |
| [O-S-V] | —— 1 // (No. 122) |
| S-v-O-V | —— 1 // (No. 90) |

次に疑問文の46例についてみると：

- ① 疑問詞を含まない一般疑問文の19例はすべて、Mod. E. の形態と一致する wO の形式を示していることに驚かされる。

即ち、V-S-O ? 51例、auxil. V を含む場合 v-S-V-O ? 4例で、他に例外的な用法は発見出来ない。

- ② 特殊疑問文では、すべて疑問詞が文頭に位置して、O-V-S? O-v-S-V? S-V-O? の wO の形式をとっている。文頭の要素はすべて疑問詞であって、No. 168 も例外ではない。

5. 第4型式

5-1 S - V - o - O 型：

- 176) Ic brede me max and sette hiȝ on stowe ȝehæppre
(*I weave me nets and set them in a suitable place*)

- 177) Ic sylle synce swa hwæt swa ic ȝefo, forpam ic eom hunta
hys (*I shall give king whatever I catch, because I am his*

hunter)

- 178) He scryt me wel and fett and hwilon sylp me hors oppe beah (*He dresses and feeds me well and sometimes gives me horse or armlet*)

- 179) Ic utwyrpe pa unclænan ut, and ʒenime me clæne to mete (*I throw the unclean (fish) out, and take me the clean for food*)

- 180) on lencʒten ic læte hiʒ ætwindan to wuda, and ʒenyme me briddas on hærfæste, and temize hiʒ (*in spring I let them escape to wood, and take me young birds in autumn, and tame them*)

次の例には, auxil. V が入って, S-v-V-o-O の形を示している。:

- 181) Ic ne dear yppan pe dizla ure (*I dare not disclose you our secrets*)

次の4例は, 従節中の発生である。尚, No. 185 の例は auxil. V を含んで(従節中の発生にも拘らず), 上の181の例と全く同様の wO の形式を示している点に注目しておきたい。

- 182) We cildra biddap pe, eala lareow, pæt pu tæce us sprecan (*We children ask you, o teacher, that you teach us to speak*)

この例文では、[] 内に SVoO の wO がみられるが、conj. *pæt* に導入されるこの節は名詞節であるから、主節の V *biddap* の直接目的語になるわけで、随ってこの複文には二重の第4型式が発生しているのである。

- 183) *Ic sylle lustlice, 3yf pu sylst me ænne swiftne hund*
(I give willingly, if you give me one swift dog)

- 184) *forpam se yrplin3 sylð us hlaf and drenc (since the*
farmer gives us bread and drink)

- 185) *Ic ne eom swa spediz *pæt* ic mæ3e dic3ean me win*
(I am not so rich that I can buy me wine)

次の2例は、命令文で主語を欠いているが、一般的な OE の命令文の原則に随うならば S (*pu* 又は *3e*) を V の次に補うことも出来よう。ただこれらの wO の形式が Mod.E. の用法と全く一致しているのでここに挙げておきたい：

- 186) *Syle me ænne hafoc (Give me one hawk)*

- 187) *Syle me pæne maran (Give me the bigger one)*

5-2 第4型式にみられる其の他の諸形式：

5-1 に於いて、Mod. E. に対応するような SVoO の wO の形式が支配

的であって、この形式が殆んど固定的な wO であるという印象を強くもったのであるけれども、猶、次の8例のように、甚だしく SVoO 型に相反するような例文が見出されるのである。これらの形式は、果して例外的な wO であるのかどうか、そして先の SVoO 型が少なくともこのテキストに於いては固定的な wO の形式であるのかどうかについて検討してみることにしよう。

- 188) ic hit toʒelæde eow hider mid micclan plihte ofer sæ
 (*I import you it hither with great danger on the sea*)

この例文は、SOVo の wO を示しているが、直接目的語 O の前転位は恐らく、この返答を導く質問との関聯からして、特に要求されている答の中心となる語 hit の強調による倒置であろうと考えられる。

- 189) eft on ærnemerʒen ic betæce hiʒ pam yrplincʒe wel
 ʒefylde and ʒewæterode (*again at dawn I hand over them
 to the farmer well filled with food and water*)

この例文は、SVOo の wO を示して、目的語の位置は丁度 5-1 にみられる支配的な wO と反対の形をとっているが、これは Mod. E. にしばしば発生するところの、直接目的語 O が（例えば一音節の語のように）軽い音を持つ代名詞（主として、*it* とその複数形 *them*）である場合にはしばしば固定的な wO に反してそれが間接目的語と交替して前転位する事実と一致するのではないか。

尚、前に 3-3 の No. 129 で挙げた次の例をも一度検討してみることにしたい：

129") Ic sceal fyllan binna oxan mid hiȝ

この文は、oxan を属格 gen. pl. とするならば、SvVO となって第3文型になるのであるし、又、それを与格 dat. pl. とするならば間接目的語であるからこの文を SvVOo 型を示す第4文型に組入れることが出来る。

もし、oxan がラテン語註の *boum* (gen. pl.) と一致する格であるとするならば、それは属格 gen. pl でなければならず、又 binna はその格と一致するように正しくは acc. pl. *binne* (又は *binna*) でなければならぬ。しかし、binna の語尾の *-n* は *fyllan binna oxan* とつづく前後の語の類韻 Assonance によって誤って附加されたものであらう⁵ ——と云う仮定が成立し、binna が事実この形を示しているのだから、oxan が果して gen. pl. か又は dat. pl. であるかを判断する基準はない。

ただ、前節でみてきたように第4文型では SVoO の wO の形式即ち間接目的語 o が直接目的語 O に先行する形式がかなり一般的な事実であることからして、oxan を dat. pl. としてこの文を第4文型に組入れられるとしても、binna を特に強調する何らかの条件が指摘されるのでなければ、依然として稍、不自然な印象を受けざるを得ないのである。随って、この問題にも関聯して Oo 型を示す次の5例を挙げておきたい：

190) Ac we witum pe bilewitne wesana and nellan onbelæden
swincȝla us, buton þu bi toȝenydd fram us (*But we know*
you (to be) kind and don't want to inflict beating on us,
unless you are compelled by us)

先ずこの例は、S/vVOo の形式を示し O が間接目的語 o に先行している。

SVO 形式に於いて O が代名詞の場合はしばしば V に先行して SOV の形

をとり、又、184の例について述べたように第4型式に於いて音声の軽い目的語の方が前転位すると云う二つの条件を考慮し、且つ、一般に間接目的語が直接目的語に先行するというこのテキストの原則に照らして、*swinc3la* を特に強調するのでなければ、稍、不自然な印象を受けるのである。

- 191) *pær we bizleofan us and foddor horsum urum habbap*
(where we get us food and fodder for our horses)

この例は、SOo/OoVの形を示し、やはり先の例と同じく直接目的語 *bizleofan* が間接目的語 *us* に先行している。そしてあとにつづく句に於いても、同様の wO が重なって発生するのであるが、後者の場合は先行する Oo の wO によって自然に同じ wO をとるようになったのであるか、或いは直接目的語 *foddor* に比してかなり長い形の *horsum urum* がその形が示す与格 dat. pl. の明確さと相俟って後位をとったものであろうか。もしも形(格)の明確さが wO の自由さを許しているとするならば、屈折の度合いが、wO の自由度の幅を規定すると云う一般的な原則に一致する一つの例として認めなければならぬ。

- 192) *pis 3epeaht ic sylle eallum wyrhtum, pæt anra 3ehwylc cræft*
his 3eornlice be3anze (I give all the workmen this advice
so that everyone may practise his craft diligently)

この例は、OSVoの形を示しているが、Oの *pis 3epeaht* の前置は明らかに強調による前転位であるとみとめられる。もしもこの強調がなければ、最も普通には → SVoO の wO を、又或いは → SVOo の wO をとら

なければならない。

- 193) nu we synd her ætforan þe, ʒearuwe ʒehyran hwæt pu
us secʒe (*now we are here before you, being ready to hear*
what you say to us)

この例は、疑問詞 *hwæt* によってみちびかれる名詞節であって、関係詞となる疑問詞が節に先行するのは当然の *wO* であるが、むしろ従節中で間接目的語 *us* が *V* に先行している点に注目しておきたい。

- 194) Ac ic wille heora cypen her luficor þonne ʒebicʒe pær,
 pæt sum ʒestreon me ic beʒyte, panon ic me afede and min
 wif and minne sunu (*But I sell them here more willingly*
than I buy there, so that I may take me a certain
profit, with which I feed myself and my wife, and my
son)

この例では、目的語が両者とも *SV* に先行して *OoSV* の形を示しているが、これは又従節中の発生であることも記憶しておきたい。

5-3 O V S o? 型, その他:

- 195) Hwæt sceoldon hiʒ me buton ic cupe temian hiʒ ?
 (*What would they be to me if I couldn't tame them ?*)
- 196) Hwylce pinc ʒelædst pu us ? (*Which thing do you bring*

us ?)

- 197) *Pu, sceowyrhta, hwæt wyrcst pu us nytwyrpnessæ ?*
(You, leather- worker, what do you make us for utility ?)

以上の3例は、いずれも OVS₀ ? の形を示しているが、文頭の直接目的語Oはすべて疑問詞である。これらの例文から類推すれば、次の例文中に欠除しているSを所定の位置に挿入することは容易である。

- 198) *pu, hwæt sylst us on smippan pinre buton isenne fyr-
 spearcan and swe3inc3a beatendra slec3ea and blawendra
 byliza ? (What do you give us by your smithy without
 fire-sparks of iron and the sound of beating sledge-
 hammer and blowing bellows)*

この例文では、主語の *pu* が呼び掛けとなって外位置 Extraposition をとっているが、このSを定位置に戻すのは、先の197の例に随えば極めて簡単なことである。随って以上の4例は、いずれも OVS₀の wO の形式を示す同一形式のものであることが理解できる。そしてこれらの文頭のOはすべて疑問詞であった。

- 199) *Hwæt pænne me fremode 3edeorf min ? (What would my
 labour have helped myself ?)*

- 200) *Hwæt me ahsast be pam? (What do you ask of me by
 that ?)*

この文には、主語が欠けているが、先の 199 の例によって、pu を ahsast の次に挿入することが出来る。これらの二つの例文は OoVS 型を示している。そして文頭の O は疑問詞であることは先の 4 例 (195~198) の場合と同様であって、疑問文に於ける疑問詞の前位は殆んど固定的な wO であることが理解出来る。

5-4-1 第 4 型式のまとめ：

| 形 式 | 例 数 | Nos. |
|--------------|-----|---------------|
| S-V-o-O | 5 | 176~180 |
| [S-V-o-O] | 3 | 182, 183, 184 |
| S-v-V-o-O | 1 | 181 |
| [S-v-V-o-O] | 1 | 185 |
| V-o-O | 2 | 186, 187 |
| S-O-V-o | 1 | 188 |
| S-V-O-o | 1 | 189 |
| [S-v-V-O-o] | 1 | 190 |
| S-O-o/O-o-V] | 1 | 191 |
| O-S-V-o | 1 | 192 |
| [O-S-o-V] | 1 | 193 |
| [O-o-S-V] | 1 | 194 |
| O-V-S-o ? | 3 | 195~197 |
| O-V-(S)-o ? | 1 | 198 |
| O-o-V-S ? | 2 | 199, 200 |

N.B. o=Ind.Object O=Direct Object

5-4-2 第4型式の結び：

25例中、先ず平叙文の19例について：19例中、Mod. E. に対応して一致する形を示すものは12例である。

① S-V-o-O 型を示すもの8例、うち〔 〕内の発生は3例、S-v-V-o-O 型2例、うち〔 〕内発生は1例、更に、Sを含め命令形の V-o-O 型2例——以上の12例は最も支配的な wO の型を示しており、又、Mod. E. のそれと明らかに一致するものである。

② その他の7例については、各1例ずつの発生で、殆んど例外的な形式であると認めざるを得ない。

ただ、目的語 O : o の関係についてみるならば、① の S-V-o-O 型に反して、7例のすべてに於て直接目的語 O が、間接目的語 o に先行して前位をとっている点に注目したい。即ち、直接目的語 O の前転位が、強調による倒置であろうがなかろうが、間接目的語 o に比して、O が前位をとり易いということは、やはり、第4型式の文に於て、間接目的語よりも直接目的語の方により重要な意味を含むためであろう。

O : o の間の関係について、もう一つ見逃してはならぬ点は、O/o が他の要素 S/V に対して（その他の二次的要素の修飾語句に対しても、それらが直接その head-word として O/o を修飾するのでなければ）、お互いがいつも接近して位置するものかどうかという点である。

これら7例（直接目的語 O が間接目的語 o に先行する形を示しているもの）についてみると、図表にみられる O-o の連続した形式は、すべて他の何の要素もその間に入れないで、接続していることがわかる。このことは、間接目的語 o が先行する o-O の場合も同様である。即ち、二つの目的語は、O-o/o-O のいずれの wO をとるにせよ。お互いが他の要素に対しては密接に結びつき合うものであることに注目しておこう。

③ この型式の場合にも、Vの後位を示す例文の多くは〔 〕内の発生であ

ることを記憶したい。(Nos. 191, 193, 194)

さて、次に疑問文の6例についてみると：

- ④ 6例のすべてに於て、疑問詞が直接目的語として文頭に位置し、且つ、V-S の wO の形式がそのあとにつづいていることは、第1～第3型式の疑問文の wO と完全に一致する形式を示していると言わねばならぬ。

6. 第5型式

6-1 S V O C 型：

- 201) 3e etap wyrta eowre 3rene, and flæscmettas eowre hreawe,
and furpon fætt broþ 3e (ne) mazon (buton cræfte minon
habban) () 内はテキストの本文に欠除して、註に補足してある部
分を示す。

*(You must eat your vegetables green (or raw), and meat
uncooked, and you couldn't have even rich broth if you have
not my craft)*

この文は、SVOC/OC という wO の形を示している。

- 202) Ac we witun pe bilewitne wesan and nellan onbelæden swin-
c3la us, buton pu bi to3enydd fram us (*But we know you
(to be) kind, and that you will not inflict beating on us,
unless you are compelled by us*)

この例文には、we know you to be kind の形式がみられる。これは一

見したところ——we know (that) you are kind という複文の形式をとっているようにみられるが、文中の *pe* は *dat.* であって主格ではないから複文の構文としてみることは出来ない。ただ、不定詞 *wesan* の位置は後位をとっていて *Mod. E.* と一致しない *wO* を示している点に注目しておきたい。

尚、後続の *nellan onbelæden swinc3la us* は定動詞を欠いて不定詞 *nellan* によって成立して *parataxis* の形態を示しているが、主節 *we witun* に従属する従節であると判断せざるを得ない。これは *OE* にしばしばみられるところの定動詞を欠く従節の独立的表現の例である。

第5型の例文は、僅かに上記2例だけしかみつからない。しかし2例とも *Mod. E.* に対応する形式の *wO* —— *SVOC* を示していることは興味深い。

尚、前に第2型式で取り上げた次の3例は、形態的には一見第5型式に属するように見えるが、*me* (46), *us* (54), *him* (60) の夫々の与格は、所謂、副詞的用法 *Adv. dat.* であって、文の主要な構造要素ではあり得ないし、又、夫々 *ys*, *beo* は自動詞であって目的語を取り得ない筈だからこれらの文を第5型式に組入れることは出来ない。これは、*Mod. E.* と対応しない *OE* の特徴的な構造の一つを示しているわけである。

46") Hwilon ic do, ac seldon, forþam micel rewyt *me* ys to sæ

54") Leofre ys *us* beon beswun3en for lare ƿænne hit ne cunnan

60") buton cræft min 3istlipe *him* beo

6-2 第5型式の結び：

第5型式については、2例だけを挙げる事が出来たが、この2例だけで、第5型式について何らかの仮定なり結論を引出すことは出来ない。ただ、これから次第に龍大な OE 文学の他の作品について資料を収集する場合に、この所謂第5型式が、OE の文構造に於て稀簿な表現形式であるのかどうか、そして時々偶然にこの形式が発生するものなのであるかどうか。

或いは又、たまたまこの作品に於て、この型式の例文の発生が少なかったのかどうか確かめてみたい。

附言しておきたいのは、ここにみられる2例が、いずれも Mod. E. に完全に一致して対応する形式を示している点である。

7. 結論と展望

すでに夫々の型式の結びに於て、資料によって得られた観察の結果を述べたのであるが、ここでは先ず、各型式全般に通じて現われた問題点について論ずることにしたい。

① 先ず第一に、予想以上に、Mod. E. に対応して一致する形式の例がみとめられたことを挙げなければならない。

平叙文についていえば、第1型式に於ては、S-V (S-v-V) 形式、第2型式では S-V-C (S-v-V-C) 形式、第3型式では S-V-O (S-v-V-O) 形式、第4型式では S-V-o-O (S-v-V-o-O) の形式がそれぞれ支配的な wO であることがみとめられる。

疑問文に於ては、各型式を通じて V-S ? の wO の形式が支配的であり、又、疑問詞の前位が固定的なものであるとみとめることが出来る。

即ち、この作品に於ては、平叙文に於ても疑問文に於ても、一般に Mod.

E. に一致する wO の形式が基準的な用法であることがみとめられた。

しかし、第2型式、第3型式には、夫々平叙文に於て SVO/C 型に対して、その他の殆んどあらゆる wO の組合せが発生していることを見逃してはならない。

即ち、第2型式では、SVC (SvVC) 型を示す19例に対して、その他の wO を示しているのは24例、又第3型式では、SVO (SvVO) 型の36例に対して、その他の形式を示すものは23例である。又、第4型式では SVoO (SvVoO) 形式以外に7例の全く個々独立した形式の発生を見逃すわけにはゆかぬ。

このように多様の自由変形 FV の発生を許しているという事実は、やはり、OE に於ける wO の自由度によるものと認めざるを得ない。

それは、例え強調などの条件によらずとも、Mod. E. ではこれ程自由な wO の組合わせは考えられない程である。夫々の自由変形については、先にならについてその発生の条件を考察したのであるが、改めて総合的に分析してその倒置なり交替なりの原因と形式の枠について考察する機会をもたねばならぬ。

② 次に、従節中の動詞の後位についてみると、第1型式では〔SV〕3例〔SvV〕1例については、全く主節中の wO と同様の形式を示して何らの相違がみとめられない。——これは、第1型式が最初から S-V という動詞の後位型の枠にあるのだから、何らの変化は起り得ないのが当然かも知れない。ただ〔 〕内の発生であるからといって、他の第2次的構成要素（特に副詞又は副詞句）のあとに動詞が後位をとるという例はないことを附言しておきたい。

第2型式の場合は、〔CSV〕7例、〔SCV〕5例の計12例が動詞の後位の特徴を示しているように見えるが、仔細に検討してみると、〔CSV〕の7例はすべて、Cの前転位によって SV がその位置にとどまったものであると

みとめられるので、これらの場合、動詞の後位は従節中の発生という条件にはあてはまらない。

随って、〔CSV〕の7例を除いて、〔SCV〕の5例についてのみ従節中の発生によって動詞の後位が条件づけられたものであることをみとめることが出来る。

しかしながら、〔SVC〕の6例 (Nos.39, 44 の従節中の2例を含めて) と、〔SvVC〕1例の計7例を考慮すれば、むしろ従節中の動詞の後位の形式はすでに次第にその発生を減少しつつ→主節の S-V-C の形式が従節中にも一般化している過程にあると考えられるのである。

第3型式では、〔SOV〕7例、〔SvOV〕2例、〔SOVv〕1例の10例については、動詞の後位が従節中の発生によるものであるという条件を考慮することが出来るけれども、〔OSV〕1例、〔OSvV〕1例の2例については、むしろOの前転位によって、S(v)Vがその位置にとどまっているとみとめざるを得ない。

この型式に於ても、〔SVO〕3例/〔SvVo〕3例の計6例は、主節と何ら異ならぬ wO を示しているので、むしろ〔SOV〕、〔OSV〕などの例はわずかに古い形を保持しているのであって、第2型式の場合と同様に、従節中にも次第に主節と同様の wO の形式が一般化しつつあるという印象をうけるのである。

次に、第4型式の〔SOo/OoV〕1例、〔OSoV〕1例、〔OoVS〕1例の3例については、文脈からみて〔OoSV〕の例は Oo の強調による倒置と考えられるので、他の2例について従節中の wO として保留することが出来るが、この2例も、〔SVoO〕3例、〔SvVoO〕1例の計4例と比較してみなければならぬ。

結局、この作品に於ては、一般にいわれているような、OE に於ける従節中の動詞の後位という特徴は、未だ消失してはいないけれども、次第に減少しつつある傾向を示しており、むしろ、主節に次第に固定しつつある wO

の形式が従節中にも普及しつつあるという印象を強くもつのである。

③ OE に於ける従節の形態の不明確さについても、更に資料を収集して分析を進めて明らかにしなければならぬ問題の一つである。

即ち、OE に於ける主節と従節の基準は未だ十分に明らかにされているとはいえないからである。(cf. Quirk & Wrenn *ibid.* p.95 § 148)

例えば、先に挙げた No.149 の例：

Ic axie þe, hwæt sprycst þu ?

この文中の、hwæt 以下は全く直接疑問文としての形態を示しているの
で、parataxis としなければならぬようであるが、Mod. E. の構文の見地か
らいえば、この節は主節に従属する間接疑問文であるか、或いは主節と等位
にある直接疑問文であるかを決定する基準がない。

これは、OE に於ける Parataxis と Hypotaxis の構文自体のアイマイさ
によるものであるけれども、又、Mod. E. にみられるような引用符による
明確な形式がないために不明確さを残しているともいえよう。

このような、OE に於ける主節と従節の構文の不明確な基準については十
分に検討する価値のある問題である。

尚、従節中の動詞の後位については、名詞節や conj. *forþam* によってみ
ちびかれる節には、むしろ殆んど主節と同様の wO の形式を示していると
みとめられることから、→従節の分類によってこの問題を分析してゆかな
ければならぬようである。

④ その他の問題点。本論は主として Mod. E. の基本文型の観点から OE
の wO の問題を論じたのであるが、しばしば、OE の構文は Mod. E. の
それと一致しない形式を示していて、どうしても Mod. E. の 文法形式のカ
テゴリーに組入れて論ずることの出来ない部分が残るのは当然のことといわ
ねばならぬ。主な問題点について指摘しておきたい：

- ① 非人称動詞の構文の形式に於て、例えば、No.168 の例：

Eala, cild, hu eow licap peos spæc ?

この例の場合に、非人称動詞 lician は、No.199 の例：

Hwæt pænne me fremode zedeorf min ?

を参照して、主語 peos spæc を示しているとみとめられるから、この文を O-V-S ? 形式として挙げる事が出来るけれども、意味内容からいえば、これは果して第3型式に入れてよいかどうか躊躇せざるを得ない。特に、非人称動詞が主語を欠く場合はどうすべきか疑問の余地が残り、今後の課題としてとり上げねばならぬ。

- ② 第4型式に於て、間接目的語がしばしば再帰的な用法を示しているが (Nos. 29, 176, 180, 185, 194 などに於ける me) , そのような場合に間接目的語となる代名詞の与格はむしろ副詞的用法 Adverbial dative としてこの第4型式を→第3型式に組入れられるような内容を示す文が多い。

このような場合に、例えば No.90

Hi3 fedap hi3 sylfe のように明らかに再帰的な用法を示している目的語と同様に間接目的語として取上げることは多少疑問をいだかざるを得ないが、やはり OE の特徴的な表現形式の一つとして十分に分析すべき問題であろう。

- ③ Mod. E. の所謂 “It is ~ to——” の非人称構文形式の場合、OE では主語 hit (又は hyt) を欠いている場合が多いが (例えば Nos. 51, 52, 53, 54 の場合) , この場合 hit (又は hyt) をもっている形式 (Nos. 44, 45, 55) と比べて、主語 hit (hyt) が省略された形式とはみないで、むしろ実質上の主語である不定動詞を主語とすべきか、或いは又、文頭にある形

容詞又は副詞を独立用法として主語とすべきか、——この形式の *hit* (*hyt*) の発生が未だ過渡的な現象を示しているとみとめられるので、これは更に古い資料によって問題を解明しなければならぬようである。以上の3点を含めて、*wO* の形式の問題を中心として発生する、構文的或いは形態的な諸問題について、尤大な OE 文学の中から資料を次第に拡充して究明すべき問題はあまりにも多いといわねばならない。(1964年10月)

〔註〕

1. Sweet, H. *N. E. G.* Part II p.5 1775.

“Accordingly, we can observe in the separate Arian languages a gradual retraction of the verb-position towards the subject-word ; ... ”

2. ① Garmonsway, G.A. *A.C.* p.5

② Stentonton, F. *A-S England.* p.452

“The year of his death is unknown.”

3. Quirk, R. & Wrenn, C.L. *O.E.O.* p.93

“The common order SVO is also disrupted by *disjuncton*, when first place is taken by an element which has special significance or importance in the context : ...”

4. ① Alston, R.C. *Intro. to OE.* p.74

“In dependent clauses (*especially when introduced by either a relative pronoun or a conjunction*) the verb is generally placed last ; ...”

② Quirk, R. & Wrenn, C.L. *O.E.G.* p.94

“In dependent clauses generally, the dominant order is SO/CV.”

③ Sweet, H. *A-S Primer.* p.60

“In a dependent clause, introduced by a conjunction or relative pronoun, the verb is usually left to the end.”

5. Garmonsway, G.A. *A.C.* p.21 fn. 32

“*binnan* : this is the only weak form recorded by BT of the usual strong *f. binn(e)* : perhaps the redundant *n* was added because of the assonance of *fyllan binnan oxan*.”

主要参考書目

1. Garmonsway, G.A. *Ælfric's Colloquy*. (Methuen), 1961.²
2. Wyatt, A.J. *An Anglo-Saxon Reader*. (CUP), 1959.²
3. Sweet, H. *An Anglo-Saxon Primer*. (OUP),
Rev. by N. Davis, 1958.²
4. Alston, R.C. *An Introduction to Old English*. (Row, Peterson), 1961.
5. Quirk, R. & Wrenn C.L. *An Old English Grammar*. (Methuen), 1960.²
6. Moore, S. & Knott, T.A. *The Elements of Old English*. (Ann Arbor), 1962.¹⁰
7. Campbell, A. *Old English Grammar*. (OUP), 1959.
8. Wright, J. *An Elementary Old English Grammar*. (OUP), 1952.²
9. ———— *Grammar of the Gothic Language*. (OUP), 1958.²
10. Sweet, H. *A New English Grammar*. 2vols. (OUP), 1898.
11. Jespersen, O. *A Modern English Grammar on Historical Principles*. London (Allen), Copenhagen (Munksgaard), 1909-49.
12. Curme, G.O. *Syntax*. Boston, 1931.
13. 毛利可信 語順, 英文法シリーズ, 研究社, 昭和36年.¹⁰
14. 市河三喜編 英語学辞典, 研究社, 昭和28年.¹²
15. Chadwick, H.M. *The Study of Anglo-Saxon*. Cambridge (Heffer),
Rev. by N.K. Chadwick. 1955.²
16. Stenton, F. *Anglo-Saxon England*. (OUP), 1962.²
17. Lewis, C.T. *A Latin Dictionary for Schools*. (OUP), 1889.
18. Sweet, H. *The Student's Dictionary of Anglo-Saxon*. (OUP), 1896.
19. Bosworth, J., Toller, T.N. *An Anglo-Saxon Dictionary*. (OUP), 1898 ;
Supplement, 1921.